



# 学習院大学 国際交流センター

Centre for International Exchange  
Gakushuin University

October 1, 2011



# Newsletter vol. 28

## 大震災後の日本で学ぶ留学生の皆さんへ

副学長 **高橋 利宏** (理学部物理学科教授/国際交流センター運営委員)

4月から副学長を仰せつかっています。国際交流担当ということで、センターの運営委員会に出席する他、センターの行事にも参加させていただいています。学習院大学にもたくさんの外国の皆さんが留学生として在籍し、勉学に励んでおられることを改めて認識し、大学として取り組まなければならないことが多いことに気付かされております。センター所長、センター職員の皆さんと協力して、留学生の皆さんの勉学環境がいっそう改善されるよう、お力になりたいと思っています。

さて、今年、2011年は、3月11日の大地震と大津波、福島原発事故と放射能汚染、計画停電、そして全国的節電体制の中での猛暑と、日本にとっては「想定外の」事態が次々に起こっています。

留学生の皆さんには、日本での勉学を断念された方もおられるとうかがっておりますが、母国の皆さんのご心配を考えると、やむを得ないことも知れません。一方、日本にとどまり、勉学を継続することを選択された皆さんもたくさんおられることに対して、その決断に敬意を表したいと思います。

日本は確かに、未曾有の大災害の中で、大きな困難に直面しています。この危機を日本がどのように乗り切っていくか、そして日本人一人一人がそこにどのように関わっていくか、今、厳しく問われています。

留学生の皆さんは、この日本がこれまでに経験をしたことのない困難に直面している真最中に、まさにその現場におられるわけです。いささか不謹慎な言い方ですが、千載一遇の機会に遭遇していると言っていないかもしれません。

そこで、皆さんにお願いがあります。このとき日本が、日本人がどう行動しているか、しっかり注目して下さい。日本の良いところも悪いところも、現場に立ち会っていることを最大限に活かして、感じておして下さい。日本という国の本当の力も、その限界も、こんなにはっきり白日の

下にさらされる機会はめったにないからです。そして願わくは、そう遠くなく、この試練を日本は見事に克服した、日本人の底力が示された、という結論が下せる日が来るよう、私たちは日本人の一人として微力ながら力を尽くしたいと思います。

留学生の皆さんにとっても、この大震災からさまざまな影響を被っていることと思います。直接の被害は小さかったかもしれませんが、例えば本学でも、節電のため講義日程が変更され、学内の施設利用は制限されています。日本で就職をお考えの皆さんは、就職戦線の厳しさを味わっておられることでしょう。

しかし、皆さんのすべてがご健康で、困難を私たちと共に耐え、所期の目的を達成されますことをお祈りしています。



今号では、2010年度第2期協定留学プログラムで、**英国・エディンバラ大学へ留学した染谷大樹さんに寄稿いただきました。**



経営学科3年  
染谷 大樹

ルームメイトとPubにて(左端が染谷さん)

私は2010年の9月から2011年の6月までの約9ヶ月間、イギリスのエディンバラ大学へ、協定留学プログラムの派遣学生として留学させていただきました。ここでは、今回の留学が自分の学生生活にどのような影響を与えたのかを、お話ししたいと思います。

結論から言いますと、今回の留学によって特に変わったと感じるのは、「もっと自分から学ぼう」と考えるようになったこと、色々な事に興味を持つようになったことです。

海外の大学に留学ということで、勉強はそれまで以上に努力しなければいけないと覚悟して日本を出ました。実際、向こうの授業に出席したとき、馴染みのない内容や言葉の壁のせいもあって、最初の授業はほとんど理解できず、「自分が思っている以上に頑張らなくては」と反省したのを覚えています。もともと勉強型の人間ではなかった私にとっては辛い現実でしたが、「勉強をしにきているのだから」と、授業でわからないところを追いつけるように、他の学生と一緒に図書館に通い自習したり、寝る時間を削って宿題を終わらせるようにしたり、それまで日本ではしなかったような努力をしました。

ところが、寮のルームメイト達と仲良くなり始め、現地の友達も出来てきた頃に、自分がそんな風に必死にやっていることを、現地の学生や他の留学生は当たり前のようにこなしていることに気づきました。言葉のアドバンテージがあるものの、彼らの勉強に対する姿勢は、それまでの自分のものとは全く違っていました。

寮の中で、ルームメイト達とお互いの専攻について話すことがよくありました。彼らは英文学、哲学、美術、建築、体育学と様々な分野を専攻しており、それぞれが勉強していることを、情熱的に説明してくれました。彼らのほとんどがまだ1年生でしたが、その知識の深さに驚かされました。経営学を専攻し、既に3年生の私ですが、日本語でもそれほど情熱的に人に語れはしません。

なぜ彼らがそこまで勉強に対して熱心になれるのかというと、それぞ

れが明確な目標を持ち、一生懸命に向かっているからだと思いました。同じ大学生の彼らですが、作家になりたい、自分の美術館を開きたい、良き体育教師になりたいなど、自分の将来像をしっかり持ち、それに向かうために今勉強するのだ、というしっかりしたモチベーションがあるからこそ、自分から積極的に学ぶ姿勢が身につけているのではないのでしょうか。私には、明確な将来像や特別にやりたいことはまだありませんが、自分の将来について深く考えさせられ、彼らの「自分から進んで学ぶ姿勢」を見習うべきだと感じました。

その後、勉強をただのノルマとしてではなく、自分のためにと自発的な気持ちで取り組むように心がけると、大変な勉強でも確かにやりがいを感じられるようになりました。この「自分から進んで学ぶ姿勢」は帰国しても続けていこうと思いました。さらに、ルームメイトや友人から様々な分野の話がたくさん聞いたことで、より多くの物事に興味を持つようになりました。「知は力なり」と言うように、何かを知っているということは、決して無駄にならないと思います。今回の留学で、少しでも気になったり興味を持ったことは進んで調べ、より知識を深めようと取り組むようになりました。知識の引き出しが多ければ多いほど、考え方や物の見方も広がってくるはずですよ。

この9ヶ月で、本当に多くの人々に会いました。違う国籍、専攻、バックグラウンドを持った人々と触れあい、共に学び、たまにはPUBやBARで息抜きをしながら世間話をし、自分とは今まで縁がなかったことや気にしなかったことについて考えたり、話したりするきっかけになりました。そういう環境で勉強・生活できたからこそ、「積極的に学ぶ姿勢」と「幅広く視野をもっている色々な事に興味を持つこと」が身に付いたのだと思います。留学では、語学の上達や大学での勉強だけでなく、このような多くの人々との出会いが私にとっては何よりの財産であり、私の将来に影響を与える重要な要素だと思っています。留学を考えている方、またこれから留学される方も、留学先での新しい人々との出会いは絶対に自分にとって財産になるということだけでも覚えておいていただくと嬉しいですよ。頑張ってください！

エディンバラの街並み



# 国際交流センターと学生生活

皆さんは「国際交流センター」にどのようなイメージを持っていますか?「留学や留学のための奨学金の窓口」、「留学生が集い外国語が飛び交う交流スペース」……。少し敷居が高く感じたり、「留学をしない自分にはあまり関係ない」と思っている方も多くかもしれません。しかし実際には、自分が留学をしなくても、国際交流への素朴な興味・関心から、当センターを気軽に訪れる方は少なくありません。では彼らは、そこでどのような時間を過ごしているのでしょうか。今回は、当センターへ出入りする学生生活を送ってきたお二人に、「国際交流センターでの出会い」について、文を寄せていただきました。

## 国際交流センターでの出会い



加藤 美緒理さん  
(英語英米文化学科4年)

留学生親睦会にて(前列右端が加藤さん)

私が初めて国際交流センターを訪れたのは、2年生になってからです。ある友人から、留学生と一緒に昼ご飯を食べる「ランチタイム交流会」というものがあることを聞き、国際交流に興味があった私は毎週のように通うようになりました。

私は国際交流センターを「自然と人が集う、和やか空間」だと思っています。お昼休みや授業の合間に覗いてみると、笑い声が聞こえたり仲間同士で課題に取り組んでいたりする姿が見られます。国際交流に関心の高い日本人学生も多く出入りしているため、波及するように交流の輪が広がります。私はここでの出会いを通じて、留学生の積極的に学びとろうとする姿勢に刺激を受け、新たにロシア語を始めたり、今まで興味なかった経済学の授業を取ってみたりと、興味の幅を広げることができました。言語や文化の異なる人々と関わる中で、人や物に対する「苦手意識」が徐々に薄れていき、気づいてみれば私の短所であった「食わず嫌い」が解消されていました。

また、日本と世界の国々をつなぐ架け橋になる、という私にとって挑戦し甲斐のある夢を持つことができたのも、国際交流センターでの出会いがあったからこそだと感じています。

とても身近な、ささやかなことから、国際交流は始めることができます。留学だけが手段ではないと気づきながらも、国際交流への興味をもてあましている皆さん、国際交流センターで、始めの一步を踏み出してみませんか?

## 国際交流センターで何が出来るか?

世川 祐多さん (史学科4年)



留学生と東京散歩(右端が世川さん)

私が国際交流センターへ出入りするようになったきっかけは、国際交流サークルを立ち上げたことです。

学習院大学という場所で留学生と日本語で交流し、日本の良さを伝えたり、価値観の違いに驚いたり、そうした中で仲良くなるという経験の深みはここでは勿論語り尽くせません。

英語が国際言語となっている中、日本語を共通言語として多国籍の会話をするのも不思議な感覚ですし、一重である私の目が面白がられたり、何故稲荷神社は赤いのかという質問など、こちらが思わずうなってしまうような事が日常茶飯事です。

そして、何よりもうれしいことは外国人の親友が出来、日々お互いの価値観や人生観、将来について語り合うことです。こうした気の合う仲間を世界中に持ち、生涯互いに刺激し合えるということが、国際交流をする一番の醍醐味だと思います。

また、外国人と接すると、自分が日本人であることが意識化されます。そして、自分も外国人にとっては日本人という外国人なのだという感覚を覚えます。この感性を磨けたことと、日本のみならず世界に良い友達を持ったことが私の学生生活においての一大収穫です。

# 国際交流センターボランティア

当センターでは、本学で学ぶ様々な国の留学生を友人としてサポートしたり、国際交流イベントのお手伝いをしたりしてくださる学生を随時募集しています。

今回登場していただいた加藤さん、世川さんも、この「国際交流センターボランティア」の一員として活躍してきました。留学生のパティヤ、パーティの企画など、当方からお願いする仕事を始め、皆さんの企画次第で活動の幅はどんどん広がっていきます。何よりも、それらに関わる中でいつのまにか育まれる「人の輪」が、皆さんの学生生活を豊かなものにするはずですよ。

ボランティア登録は国際交流センター窓口にて受け付けています。皆さんの応募をお待ちしております。

## 最近のボランティア活動内容

- 5月 留学生親睦会の運営
- 6月 留学生対象のバス旅行の補助
- 7月 留学生対象の伝統芸能(歌舞伎)鑑賞会の補助  
協定留学生のフェアウェルパーティ(歓迎会)の運営
- 9月 協定留学生パティヤの活動開始



▲東京スカイツリーを背景に(バス旅行)



▲歌舞伎鑑賞教室(国立劇場にて)



▲協定留学生のフェアウェルパーティ

## 2012年度第2期 協定留学プログラム派遣学生の募集

ただ今、2012年度第2期協定留学プログラム(留学期間:2012年10月~2013年9月/派遣先:中国、アメリカ、ヨーロッパ等)の出願を受け付けています(募集要項は掲示・G-Port・当センターホームページなどで公示しています)。

なお当センターにて、本プログラムにより派遣した先輩方の留学体験記を閲覧できますので、応募にあたってはそちらも参考にしてみてください。  
※2012年度第1期(留学期間:2012年4月~2013年3月/派遣先:韓国、タイおよびオセアニア)の募集はすでに終了しました。

### 2011年度第2期派遣学生からのメッセージ

皆さんの中には学力的、金銭的、精神的な不安が原因で留学を躊躇している人はいませんか?そんな人には協定留学プログラムでの留学をお勧めします。

私は元々、志望先の大学の求める学力を満たしていませんでした。しかし、国際交流センターの職員の方々のサポート、また共に協定留学を目指す友人との情報交換などにより、なんとかクリアすることができました。

また、留学先の大学へ提出する書類の準備やビザ申請など、一般の業者に依頼するとかかなりの費用がかかってしまうところ、協定留学であれば国際交流センターの職員の方々が全面的にサポートしてくれます。その他にも留学に向けたオリエンテーションを数回開いてくれるので、とても心強いです。  
(英語英米文化学科3年 戒能 大樹)



### 【2011年度の協定留学プログラムによる派遣学生】

派遣先大学	派遣学生
慶北大学校(韓国)	法学科3年 中田 仁美
ノースカロライナ州立大学シャーロット校(アメリカ)	法学科3年 田村 郁哉
エディンバラ大学(イギリス)	英語英米文化学科3年 及川 勝士
エディンバラ大学(イギリス)	英語英米文化学科2年 森井 愛咲美
オックスフォード・ブルックス大学(イギリス)	英語英米文化学科3年 戒能 大樹
マンハイム大学(ドイツ)	法学科2年 山家 真希子
バイロイト大学(ドイツ)	史学科3年 藤井 萌
リヨン第二大学(フランス)	フランス語圏文化学科4年 園木 薫子
リヨン第二大学(フランス)	フランス語圏文化学科2年 山本 緑

## 春季オーストラリア語学研修のお知らせ

平成24年2月末から3週間、本学協定校である、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)にて語学研修(英語)を実施します。

現在の英語力や学科を問わず参加できますので、「部活で夏休みに時間がとれなかった」という方や、「1年間の留学はためらいがあるけど、短期なら…」という方など、ぜひこの機会を活用してください。

詳細については、掲示・G-Port・当センターホームページ等で公示します。また、説明会を開催しますので、必ず参加してください。

## 海外留学のための奨学金について

本学では、留学に伴う経済的負担を軽減し、少しでも多くの学生に留学を経験してもらうことを目的として、海外の大学等へ留学する学生を対象に、「学習院大学海外留学奨学金・奨励金」という制度を設けています。

制度名	金額	選考時期	採用数	採用実績※2
学習院大学 海外留学奨学金	50万円以内	年2回 (12・6月)	20名程度	18名
学習院大学 海外留学奨励金※1	10万円以内	年2回 (12・6月)	10名程度	10名

※1 上段「奨学金」支給対象者のうち、特に優秀な学生に支給。

※2 採用実績はH23年度。

平成24年度に留学を開始する皆さんを対象とした第一回目の募集(上記「選考時期」12月の回)については、募集要項を10月に掲示・G-Port・当センターホームページなどで公示する予定です(平成23年度の募集は終了しました)。

費用面が気になり留学を躊躇する方も少なくない一方で、これまで多くの先輩方が、本制度を活用し世界へ踏み出していきました。書類や面接による厳密な審査があることも事実ですが、十分な可能性を持ちながら、経済的な理由でそれらが潰れてしまうのはとても残念なことです。ご自身の留学計画にあわせ、積極的に応募していただけたらと思います。上記の10月から始まる応募に間に合わなくても、来年5月頃には、第二回目(上記「選考時期」6月の回)の募集要項をお示しする予定です。

なお、本奨学金を利用し留学を結実させた先輩方の留学体験記が、当センターにて閲覧できます。

このほか、留学関係の奨学金については、以下のようなものがあります。

名称	奨学金額	採用数
学習院大学海外短期語学研修奨学金	10万円以内	100名程度
【対象者】夏季休業中、3週間以上の語学研修に参加した者 ※今年度の出願受付期間:10月3日~10月7日		
学習院大学海外ボランティア活動奨励金	10万円以内	10名程度
【対象者】夏季休業中、海外においてNGO、NPO等の団体でボランティア活動を行った者 ※今年度の募集は終了しました		
大学院学生国外研究発表援助	10万円以内	15名程度
【対象者】大学院生/国外における研究集会で、発表を行う者(共同研究を含む) ※募集時期:年1回(12月)/今年度の出願受付中		

※募集内容や応募条件等詳細については、国際交流センターにお問い合わせください。

### 【参考:留学中の学費について】

学内手続きを経た留学期間中の本学の授業料・維持費は半額に減免されます。また、協定留学プログラムによる留学の場合は、派遣先の授業料が免除されます。(一部の大学を除く)

## 「Facebook」と「Twitter」をはじめました

各募集案件から日常のささやかなことまで、随時更新しています。今号でご紹介した「国際交流センターボランティア」の活動もこちらでご覧いただけます。

開始からすでに3ヶ月ほどが経過し、「いいね!」や「フォロー」の数などの目に見えるところ以外でも、これらのページをとおり、学生同士の交流が広がっているようです。

Facebook: <http://www.facebook.com/cie.gakushuin.ac.jp>

Twitter: [http://twitter.com/Gakushuin\\_CIE](http://twitter.com/Gakushuin_CIE)

# Newsletter vol.28

October 1, 2011

発行日/2011年10月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/>

★表紙の写真/学校法人学習院 広報課

●編集後記●「複雑系」という言葉をご存知でしょうか。「ある事象は、何が原因になっているかわからない。単純な法則で数個のみに因果関係を特定すべきでない」という考え方は、それは人生そのものだ、と言えばそれまでですが、一段と未知との遭遇だらけな海外留学の成果はまさに「複雑系」。費用対効果中毒の私たちがはるかに、「TOEIC●点アップ」、「就職に有利」等わかりやすいところを目を向けがちですが、たまたま食べた美味しい(不味い)fish & chipsの味が人生に何の影響も与えないなんて誰が断言できるでしょう。「留学って何かの役に立つの?」それは、何かの役に立つまでわかりません。

### 【平成23年度国際交流センター運営委員】

所長	水野 謙 (法学部)
運営委員	鎮目 征樹 (法学部)
//	Brown, Phillip (経済学部・外国語教育研究センター)
//	村野 良子 (文学部)
//	谷島 賢二 (理学部)
//	高橋 利宏 (副学長)
//	中山 高二 (学生センター部長)
//	宮澤 文玄 (国際交流センター課長)